

4 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

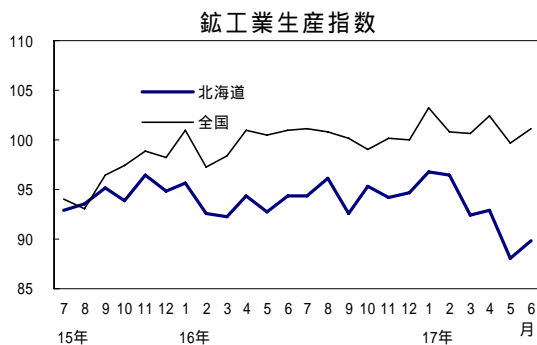
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 5 月)	今回 (平成 17 年 8 月)	
観光	やや減少	やや持ち直し	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年並みとなり、水産業の水揚量は前年を上回っている。
生乳生産は、牛乳等向けが増加した一方、乳製品向けが減少したことから、総量では、972,292tと前年比で1.2%減と前年並みとなった。水産業(主要11港主要品目)は、この時期の主力であるほっけやすけとうだらが前年を上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
食料品・たばこは、前期のたばこ工場の閉鎖による影響が大きく2期連続の減少となった。また、石油・石炭製品において5月及び6月に石油製品生産施設に大規模な定期修理が入り、6期ぶりに大幅なマイナス(前期比10.5%減)となっており、以上の要因を除けば、生産はおおむね横ばい圏内で推移しているものと考えられる。
他方、パルプ・紙は、新聞巻取紙などが減少し、5四半期ぶりにマイナスとなった。電気機械は、プリント配線盤などの不振から2期ぶりのマイナスとなった。窯業・土石は、前期にセメント製造ラインの定期修理があったことからの反動などから前期比でプラスとなった。金属製品は、金網などが低下し2四半期連続のマイナスとなった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
食料品・たばこ	26.5	2.4	10.5	9.9	1.8
パルプ・紙	12.1	2.6	2.4	1.5	2.0
電気機械	9.5	2.9	1.2	2.6	16.5
窯業・土石	9.0	7.9	9.4	7.5	4.8
金属製品	9.0	4.2	0.5	0.6	19.3
鉱工業	100.0	0.6	5.2	6.0	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

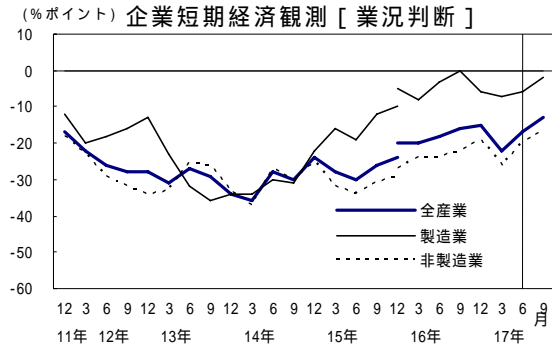
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

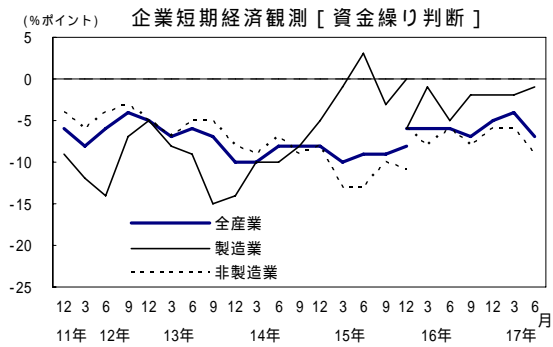
2. 平成17年6月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

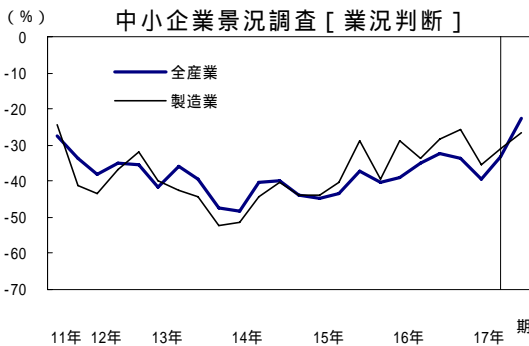
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

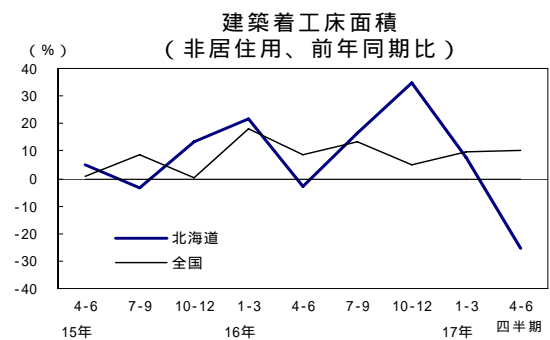
「原油高にあるが、輸送関係では運賃の値上げが浸透していない。むしろ横ばい、又は悪くなっている状況である(輸送業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 17年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

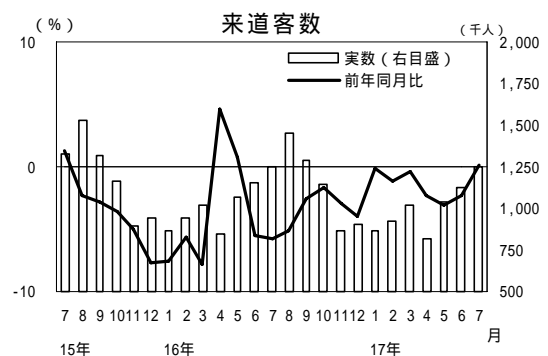
	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	8.0 (2.8)	9.7(2.2)
製造業	21.2 (6.0)	41.3(1.4)
非製造業	2.0 (1.1)	4.9(2.9)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はやや持ち直している。

来道客数は、前期まで前年の水準を下回る状況が続いていたが、このところ、主力である東京方面を含む他地域からの来道客数が持ち直し傾向にあり、7月は前年の水準に達する状況となっている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

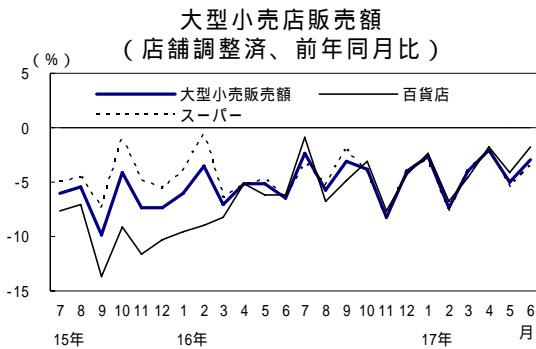
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は例年より気温が低かったことから身の回り品や衣料品が振るわなかった。5月も気温の低い状況が続いたため、同様に身の回り品や衣料品が振るわなかった。6月は気温が平年並みに戻ったこと、クールビズ及び父の日の効果により16か月ぶりに前年を上回ったものの、身の回り品と飲食料品が前年を下回った。四半期で見ると前年割れが続いているものの、前期より減少幅が若干縮小した。なお、日本百貨店協会によると、北海道地区の7月の売上高は、前年同月比で0.7%減となっている。

スーパーは、主力の飲食料品を中心に、衣料品、その他が低調だった。四半期で見ると、前期に比べ若干減少幅が改善した。

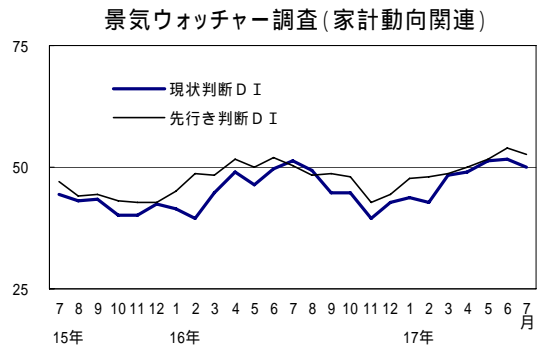
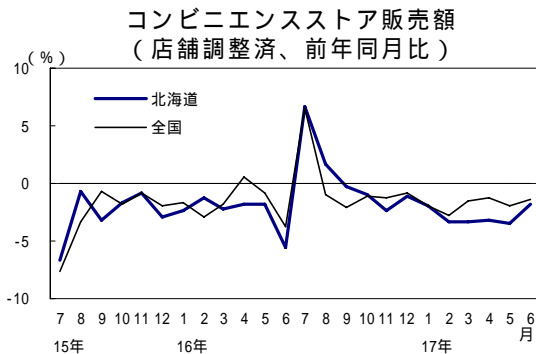
景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「今月の客数は前年を4%ほど上回っているが、売上増につなげておらず、逆に売上が3%ほどダウンしている。特にファッション、ホームリビング関連の商品を中心として売上の低迷が続いている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	3.7	5.2	4.6	3.3
百貨店	4.0	4.9	4.4	2.5
スーパー	3.6	5.4	4.7	3.8
コンビニ	2.6	1.5	2.9	2.8
景気ウォッチャー	48.4	42.4	44.9	50.6

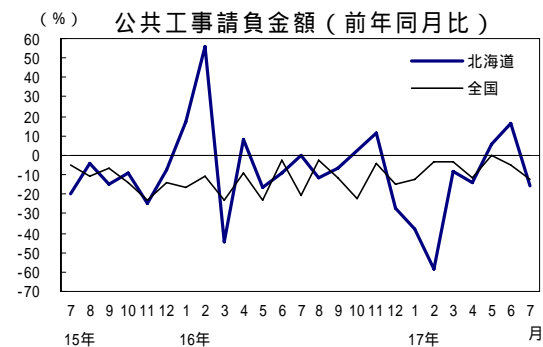
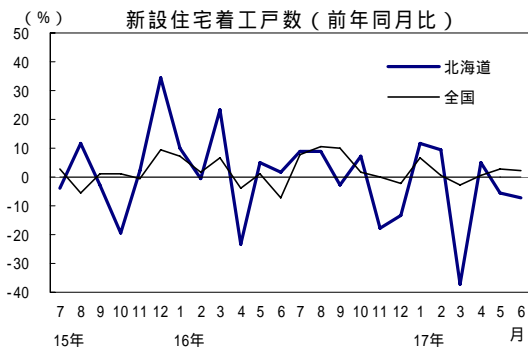
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

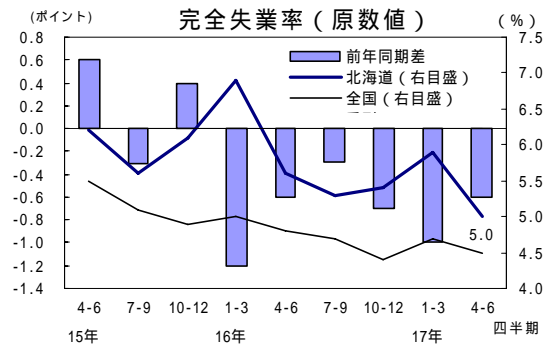
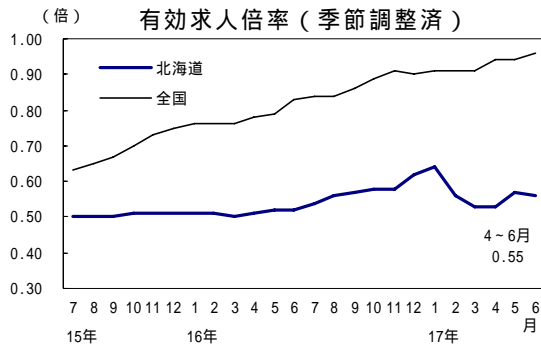
貸家は前年を上回ったものの、分譲、持家及び給与が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。

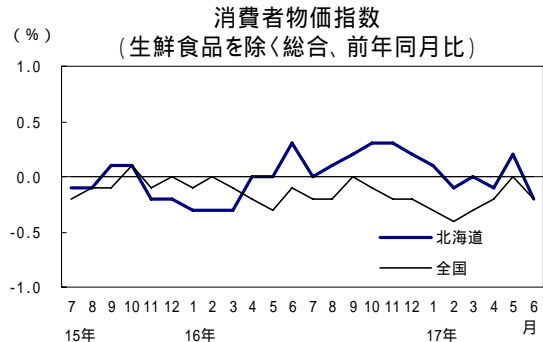


景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]
 「高卒者の地元離れが進み、18～25歳の若年求職者の数が総体的に減少している。加えてスキル不足から就職決定率が低下している。特に非常用雇用の飲食関連の求人のリピートが多くなってきていることからうかがえる現象である（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
 7月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。
- (3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3	4-6月	17年7月
倒産件数	110	136	168	132	48
(前年比)	24.1	0.7	10.5	19.0	26.3
負債総額	227	510	787	265	241
(前年比)	49.4	52.8	76.9	38.9	193.4



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・街中でのイベントの開催が多彩になり、また天候にも恵まれたことから、来街者が増えた（商店街）

<先行き>

- ・知床の世界自然遺産登録による効果に期待している。知床ブームを知る者が減少してきているが、今回の世界自然遺産への登録で異なる世代の知名度が上がり、自然志向と相まって道内外客の増加が期待される（観光型ホテル）

景気ウォッチャー調査（合計）

